

平成30年3月1日（木）

P T A会報（全日制）

秋田県立本荘高等学校 校長 今井 智幸

未来を拓く生き抜く力を育むために

にかほ市在住で、本校 65 期卒業生の三浦春夫さんという方が、将来を担う本高生にぜひ援助を行いたいということで、プロジェクター、電動スクリーン、液晶テレビ、図書等を12月に本校に寄贈されたこと、三浦さんも本高生の時々の活躍を心から喜び応援されていること、そして、本校が多くの学校関係者や地域の方々から様々に支援していただいていることを、二学期終業式で生徒たちに紹介しました。保護者の方々からも、玲瓏祭一般公開日でのバザー、秋の街頭指導・登校時の一声運動、茶道体験・マナー教室と、生徒たちと交流を図りながら、学校への協力・支援をいただいています。

ところで、変化の激しい社会を「生きる力」とは、これまで「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」という「知・徳・体」の統合した力であるとされてきました。そして今回（平成29年3月公示）、一定の教育水準を確保するため基準を示す次期学習指導要領（幼稚園2018年度、小学校2020年度、中学校2021年度、高校2022年度から実施）では、ICT（情報通信技術）、AI（人工知能）等の高度な発達による第4次産業革命を見据え、予測不能な変化の時代に柔軟に対応する「生き抜く力」として、

- (1) 生きて働く「知識・技能」
- (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」
- (3) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」

という三つの柱を定め、幼小中高を問わず発達段階を踏まえ、全ての学校で育むこととしています。実はこれは、新しい時代に必要となる資質・能力という視点から捉え直した新しい学力観、つまり「学力の三要素」でもあるのです。

一方、家庭教育は全ての教育の出発点とよく言われます。基本的な生活習慣の確立、自立心の育成、心身の調和の発達など、人として生きる力の基礎的な資質や能力は、家庭において培われるからです。家庭教育が、未来を支える子どもたちへの「大切な贈り物」とされる所以です。

今後とも、保護者・同窓会等の学校関係者や地域社会との連携・協働を深めながら、生徒たちの未来を拓く「生き抜く力」を育むために、職員一同力を尽くして教育活動に努めていく所存です。これまでと変わらない御理解と御協力、御支援をお願い申し上げます。